



認証番号0013171

2023年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年 8月～2024年 7月)



株式会社 斉藤工務店
SAITO CORPORATION

発行日： 2024年9月30日

I. ごあいさつ

齊藤工務店の前身は江戸末期から明治初期淡路の「名彫大工」として特に淡路壇じり彫刻に異彩をはなつた、“齋藤万琳齋正甫”（三原町志知）の子孫にあたり戦時中は京都にて企業合同を命じられ、淡路島より京都に移り、京都の建築に携わって参りました。その後時代背景と共に三男であった祖父の齋藤栄城が淡路に帰省し齊藤工務店を創業致しました

その後大工として実績を積み、昭和32年建設業許可を取得し、淡路島でより多くの建築に携わり、地元密着にて実績を積み上げて参りました。

現在では一般住宅の新築・リフォーム、公共建築、公共土木工事、太陽光発電、工場のメンテナンスから雨漏りの修繕等まで工事の大小関係なく地域のお客様のご要望に誠心誠意お答せて頂いております。

今後もお客様より、信頼される企業を目指し、誠意と創意、そしてお客様との対話をなによりも大切に事業を展開し、地元地域に末永く貢献して行く所存です。

環境経営方針

当社は、経済活動において、地球環境の保全のために、環境負荷の一層の低減を図るべく、全社一丸となって、自主的・積極的に環境への取組を推進します。

1. 環境経営システムを維持し、継続的に改善していきます。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 二酸化炭素排出量の削減を推進します。

（電力、ガソリン、軽油、灯油）

4. 廃棄物の削減とリサイクルを推進します。
5. 水使用量の削減を推進します。
6. 環境に配慮した施工を推進します。
7. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日： 2020年2月20日

改定日： 2021年8月1日

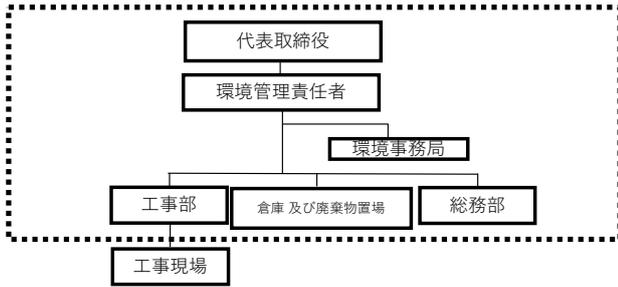
代表取締役 齋藤 新太

II. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社齊藤工務店
代表取締役 齋藤 新太
- (2) 所在地
本 社 〒656-0131 兵庫県南あわじ市広田中筋318番地の4
倉 庫 同 上
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先
責任者 代表取締役 齋藤 新太
- (4) 事業内容
土木工事業、建築工事業、大工工事業、とび・土工工事業、屋根工事業、
電気工事業、管工事業、舗装工事業、塗装工事業、防水工事業、
内装仕上工事業、水道施設工事業、解体工事業、鋼構造物工事業
建設業許可 兵庫県知事許可第800715号 許可年月日 令和5年5月16日
産業廃棄物収集運搬業 (自社物のみ運搬) 兵庫県 第02809161132号
許可年月日 令和3年7月13日
- (5) 事業の規模
設立 昭和48年8月9日
資本金 4千万円
建設業売上高 3.5億円 (2023年度実績)
各事業所の規模

	本社	倉庫	合計
従業員	10名	0名	10名
延べ床面積	260㎡	440㎡	700㎡
敷地面積	1900㎡		1900㎡

(7) 組織



	役割・責任・権限
代表者 代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認 ・経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者 代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局 総務部	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 ・環境教育訓練計画の作成と実施の管理 ・特定された項目の手順書作成（緊急事態への対応を含む） ・環境経営レポートの作成、公開（事務所への備付けと地域事務局への送付）
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の運用管理 ・緊急事態対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
工事責任者 (現場代理人)	<ul style="list-style-type: none"> ・建設現場における環境経営システムの実施 ・工事担当者及び協力会社員に対する教育訓練の実施 ・建設現場の環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・緊急事態対応訓練の実施、記録の作成 ・建設現場での問題点の発見、是正、予防措置の実施
倉庫責任者 代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・倉庫における環境経営システムの実施 ・緊急事態対応訓練の実施、記録の作成 ・倉庫内の整理整頓の実施 ・倉庫での問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

Ⅲ. 認証・登録の対象範囲

全組織・全活動

Ⅳ. 主な環境負荷の実績

項目	単位	2021年度 (2021年8月 ～2022年7月)	2022年度 (2022年8月 ～2023年7月)	2023年度 (2023年8月 ～2024年6月)
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	84,942	54,248	76,213
電力使用量	kWh	9,659	11,668	8,122
ガソリン使用量	L	12,243	12,124	11,281
軽油使用量	L	19,772	7,901	17,413
灯油使用量	L	540	532	630
廃棄物排出量	t	391	300	214
一般廃棄物	kg	80	38,128	13,155
産業廃棄物	t	391	262	201
水使用量	m ³	240	226	229

注) 2021年度、2022年度および2023年度の電力使用量は太陽光発電（自家発電）をそれぞれ7,280kwh、27,173kwh、7,086kwhを含んでいない。

Ⅴ. 環境経営目標及びその実績

(1) 中期目標

項目	年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		基準年度	△1%	△2%	△3%
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	84,942	65,561	64,899	64,237
電力使用量 削減 ^(注1)	kWh	9,659	9,798	9,699	9,600
	kg-CO ₂	3,474	3,439	3,404	3,370
ガソリン 使用量削減	L	12,243	12,337	12,213	12,088
	kg-CO ₂	28,912	28,622	28,333	28,044
軽油 使用量削減	L	19,772	12,305	12,181	12,057
	kg-CO ₂	32,566	32,240	31,914	31,589
灯油 使用量削減	L	540	506	501	496
	kg-CO ₂	1,272	1,259	1,247	1,234
II. 廃棄物排出量					
一般廃棄物 削減	kg	1,005	995	985	975
産業廃棄物 適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
建設リサイクル率 の向上	% 対基準	99	100	100	100
III. 水使用量 削減	m ³	272	269	267	264
IV. 環境に配慮した 施工の推進	件 対基準	実績件数 30	31 +1件	32 +2件	33 +3件

注1) 電力の二酸化炭素排出量への排出係数は、関西電力（株）2020年度実績値の調整後係数 0.351kg-CO₂/kWh を使用。

(2) 運用期間の実績

項目		年度	2023年度実績				
			2020年度	(2023年8月～2024年7月)			
		基準値	目標	実績	達成度	評価	コメント
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	84,942	64,237	76,213	84%	×	下記の通り
	対基準		△3%	△15%			
電力使用量削減	kWh	9,659	9,600	8,122	118%	○	酷暑ではあったが、空調温度の設定に注意した結果目標を大きく達成した
	kg-CO ₂	3,474	3,370	2,851			
	対基準		△3%	+17%			
ガソリン 使用量削減	L	12,243	12,088	11,281	107%	○	効率の良いルート検索や急加速急発進をしないよう心掛けた結果達成した
	kg-CO ₂	28,912	28,044	26,172			
	対基準		△3%	+9%			
軽油 使用量削減	L	19,772	12,181	17,413	70%	×	自社で重機を使用する現場の増加により使用量が増加した
	kg-CO ₂	32,566	31,914	45,622			
	対基準		△3%	△40%			
灯油 使用量削減	L	540	496	630	79%	×	冬季の寒さの補完で使用量が増加した
	kg-CO ₂	1,272	1,234	1,569			
	対基準		△3%	△23%			
II. 廃棄物削減							
一般廃棄物 削減	kg	1,005	975	13,155	7%	×	草・木の伐採発生により事業系一般廃棄物量が増えたため
	対基準			+1208%			
産業廃棄物 適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	—	○	産廃が発生する工事現場が少なかった。今後も適正管理に努める
	t	340		201			
建設リサイクル率 の向上	%	99	100	78	78%	×	最終処分場への混合廃棄物が多く未達成だった
	対基準			△21%			
III. 水使用量 削減	m ³	272	267	229	116%	○	各人が節水を意識し達成できた
	対基準		△3%	△16%			
IV. 環境に配慮した 施工の推進	件	30	33	かんK	#VALUE!	#VALUE!	社員一人一人が自分ができることを意識して行動したため、件数が増えた
	対基準		+3件				

注1) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度＝目標÷実績×100%、増加を目指す場合は、達成度＝実績÷目標×100%

注2) 評価欄にて、○：達成（100%以上）、△：やや未達成（90%～100%未満）、×：未達成（90%未満）

注3) 環境に配慮した施工とは、騒音、振動、粉じん、道路の汚れ、水の汚れなどを防止し、廃棄物適正処理・3Rに努め、付近住民の生活に配慮した工事を言う。

注4) IV. 環境に配慮した施工の推進の基準値は2020年度実績値とする

VI. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

※8～10月、11～1月、2～4月、5～7月の4期に分けて評価しております。

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

—該当なし

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の環境経営計画
二酸化炭素排出量の削減		
(下記の通り)		(下記の通り)
電力使用量の削減		
・空調温度の適正化 (冷房28℃暖房20℃)	◎◎◎◎	冬期の空調温度の適正化を目指す。
・不要照明の消灯	◎◎◎◎	普段より意識し実行できた。
・設備の空運転禁止	○○○○	普段より意識し実行できた。
		次年度も、左記取組を継続する。
ガソリン使用量の削減		
・アイドリングストップ	○○○○	引き続き意識をしエコドライブを実行する。
・急加速・急停車の防止	◎◎◎◎	普段より安全運転に注意しているのでまずまずできた。
・効率的な移動	◎◎◎◎	もっと無駄を省く計画性が必要と思われる。
		次年度も、左記取組を継続する。
軽油使用量の削減		
・重機の空ふかしの禁止	○○○○	もっと意識をしエコドライブを実行する。
・アイドリングストップ	○○○○	普段より安全運転に注意しているのでまずまずできた。
・空気圧、オイル等の点検	○○○○	より無駄を省く計画性が必要と思われる。
		次年度も、左記取組を継続する。
灯油使用量の削減		
・室温管理 (20℃を基準)	△△△-	もっと省エネ意識を持たせ、ムダな使用を無くして行く。
・部屋開放の禁止	△△△-	必要のない部屋解放には注意を配る。
		次年度も、左記取組を継続する。
一般廃棄物の削減		
・分別の徹底	◎◎◎◎	今後も実態調査を継続しながら、分別に努める。
産業廃棄物の適正管理		
・実態調査	◎◎◎◎	正確な排出量を把握する工夫をする。
・素材ボックスの設置	○○○○	分別ができ、状態が把握できるようにしている。
		今後も実態調査を継続しながら、削減に努める。
建設リサイクル率の向上		
・分別によるリサイクル推進	○○○○	石膏ボード、ガラス・陶磁器くず、建設混合廃棄物があり最終処分場行きとなった (全産業廃棄物量の5%)。
		次年度も、左記取組を継続する。
水使用量の削減		
・節水の周知徹底	◎◎◎◎	節水に心掛けた。より徹底をはかる。
・清掃時・手洗い時の節水	◎◎◎◎	より多くの工夫ができるようにする。
		次年度も、左記取組を継続する。
環境に配慮した施工の推進		
・工事分野別の技術・ノウハウの収集	○○○○	各種工事分野の環境配慮工法について調査を継続する。
・環境配慮施工の推進	◎◎◎◎	可能な限り環境に配慮した施工を実施した。
		次年度も、左記取組を継続する。

VII. 次年度以降の環境経営目標

項目	年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
		基準年度	△1%	△2%	△3%	△4%
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	76,885	76,116	75,347	74,578	73,809
電力使用量 削減 <small>(注1)</small>	kWh	8,122	8,041	7,960	7,878	7,797
	kg-CO ₂	3,525	3,489	3,454	3,419	3,384
ガソリン 使用量削減	L	11,282	12,337	12,213	12,088	12,088
	kg-CO ₂	26,174	25,912	25,650	25,388	25,127
軽油 使用量削減	L	17,411	12,305	12,181	12,057	12,057
	kg-CO ₂	45,617	45,160	44,704	43,957	43,792
灯油 使用量削減	L	630	506	501	496	496
	kg-CO ₂	1,569	1,553	1,537	1,521	1,506
II. 廃棄物排出量						
一般廃棄物 削減	kg	13,155	995	985	975	975
産業廃棄物 適正管理	—	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
建設リサイクル率 の向上	%	87	100	100	100	100
III. 水使用量 削減	m ³	229	269	267	264	264
IV. 環境に配慮した 施工の推進	件	実績件数	33	34	35	36
	対基準	32	+1件	+2件	+3件	+3件

注1) 電力の二酸化炭素排出量への排出係数は、関西電力(株)2020年度実績値の調整後係数 0.434kg-CO₂/kWh を使用。

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
建設リサイクル法	建築物等の分別解体義務、事前届出 特定建設資材廃棄物の再資源化義務	遵守
建設業の再生資源利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用 再生資源利用計画書、実施記録の作成	遵守
大気汚染防止法	特定粉じん排出等作業の実施の届出、作業基準の遵守 石綿使用有無の事前調査及び届出 a. 「事前調査及び調査結果の書面説明」及び「説明書面の写し保存（工事終了日から3年間）」 b. 「事前調査結果の記録作成・保存（工事終了日から3年間）」 c. 「知事への報告」（令和4年4月1日）から適用 d. 「下請負人への説明」 e. 「事前調査結果の掲示」 f. 「作業基準遵守」 g. 「作業記録作成・保存」（作業終了日から3年） h. 「作業終了後の発注者への書面報告、同書面保存（作業終了日から3年間）事前調査、調査結果の書面説明、説明書面写し保存（3年間）」	遵守
自動車NOx・PM法	規制対象車両の登録禁止 規制対象車両の指定地域通行禁止	遵守
騒音規制法	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
振動規制法	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
オフロード法	基準に適合した特定特殊自動車の使用 点検整備、適正燃料使用（軽油）	遵守
低騒音・低振動型建設機械の規程	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守
水質汚濁防止法	公共用水域への排出水の排出基準の遵守、特定施設の届出、水質の測定と記録、事故時の届出	遵守
浄化槽法	浄化槽の設置の届出、保守点検、清掃、水質定期検査の実施	遵守
災害時緊急対応業務に関する協定	兵庫県との災害時対応協定	遵守
環境の保全と創造に関する条例	兵庫県条例 第4条 事業者の責務	遵守
環境の保全と創造に関する条例	南あわじ市条例	遵守
消防法	事故時の措置と届出（通報） 消火訓練の実施 消火器点検・記録	遵守
家電リサイクル法	特定家電4品目の適正な事業者（家電販売店）への引き渡し	該当なし
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正な事業者（引取登録事業者）への引き渡し	該当なし
フロン排出抑制法	フロン類使用機器の簡易点検と記録及び保存、漏洩防止、廃棄時の適切な a. 「解体する建物における業務用エアコン・冷凍冷蔵機器の有無の事前確認。 その結果の発注者への書面説明及び説明書面の写しの3年間保存。 b. （フロン類引渡し義務。）	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。

なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。

Ⅸ. 代表者による全体の評価と見直し・指示

全体目標である二酸化炭素排出量の削減目標は、今回未達に終わりました（達成度85%）。
その中で、弊社事務所の電力消費量（従量電灯B）におきましては、対目標値の81%に抑えることができたことは、酷暑の中空調温度の適正化や不要照明の消灯等に意識して取り組み意識して行動くれた社員のおかげだと考えます。
その他にも社員それぞれが環境経営計画に取り組み、考えて行動してくれたことが今期の大きな成果でした。
今年度の結果を全従業員へ周知し、次年度も引き続きひとりひとりが何をすべきか考え、環境配慮への取組みを継続し、安全に日々の業務に取り組みたいと思います。

項目	見直しの必要性	見直し内容
環境経営方針	無	—
環境経営目標	無	—
環境経営計画	無	—
実施体制	無	—
その他の要素	無	—

2024年 9月 30日
代表取締役 齋藤 新太

【環境活動の取り組み内容】

1. 社内教育の様子



2. 緊急事態訓練

事務所火災を想定、消火器点検・使用方法確認

